海気通信

15号
2019/3/31
発行
千葉市民ギャラリー・いなげ

〒263-0034
千葉市稲毛区稲毛1-8-35
TEL:043-248-8723
FAX:043-242-0729
https://galleryinage.wordpress.com

＊バックナンバーをダウンロードできます。

「旅する建物」千葉トヨペット本社旅行記

巨大なお寺？いえ車の会社です

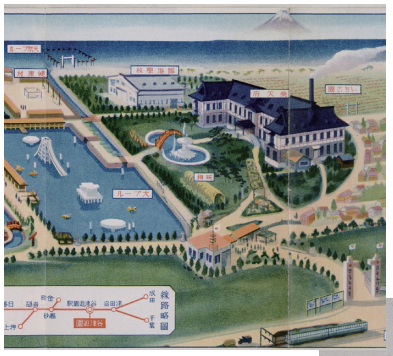
ギャラリー・いなげから国道14号を東京方面に進んでいくと、現代的な街並みの中に突然、風格ある寺社風の建築が見えてきます。気になりながら通り過ぎていた方も多いのではないでしょうか。実は千葉トヨペット本社の社屋なのです：が、さらに驚くことに、この建物は元は明治時代に東京の麹町区（現・千代田区内幸町）で完成した銀行だったのです。内幸町から稲毛まで距離にして約35キロ、その長い旅路を辿ってみたいと思います。

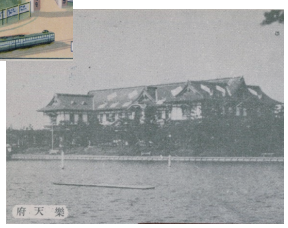
明治の西洋建築への反動？

建築家の妻木頼黄氏と武田五一氏の設計による日本勧業銀行が東京麹町区で落成したのは明治32年（1899年）のこと。妻木氏は日本橋や横浜正金銀行本店の建築を、武田氏は法隆寺や平等院の修復を手掛けた明治の建築界の重鎮です。構造は木造2階建で、唐破風（寺社の屋根などで見られる反った曲線状の造形）の玄関や緑青の銅葺屋根が特徴的です。桃山時代の城郭や仏閣のような豪華絢爛なデザインは、西洋建築が流行った時代ですから目立ったでしょう。

最初の目的地は夢の遊園地

27年後の大正15年（1926年）、京成電気軌道株式会社（現・京成電鉄）に売却され、いよいよ移築の旅が始まります。最初の移築先は千葉の谷津遊園（今の習志野市の谷津バラ園周辺）という遊園地でした。稲毛同様に谷津も埋立前は海辺の街で当時は塩田が盛んだったそうです。しかし、台風被害が多いことから大正14年（1925年）に海を一部埋め立てて海水浴場と一体化した遊園地となります。園内には潮干狩り場、天然プール、動物園、いちご園、演芸場、釣り堀、ラジウム温泉まであり、当時のあらゆる楽しみが凝縮された千葉県を代表する遊園地だったことが想像できます。そして元勧業銀行はというと、遊園地の入口をくぐってすぐの庭園内に鎮座していました。当時のパンフレットによれば「楽天府」と呼ばれ、「一階は各種娯楽場、遊技場、休憩室、直営食堂、売店等、二階は遠く秀峰富士が眺望される大小の貸室および演芸場」と紹介されています。太鼓橋や噴水のある庭園に囲まれた素敵な移築先だったようですね。





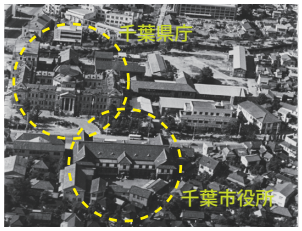
①パンフレット「京成電車 谷津遊園案内」の表紙と一部分
（発行：京成電鉄）

「谷津遊園」という駅名から昭和 11～14年頃のものと思われます。右の写真はパンフレットに掲載されていたもので、大プール越しに楽天府を撮影したようです。

洋風の千葉県、和風の千葉市

それも束の間、昭和15年（1940年）に楽天府は千葉市に移築され、市役所の庁舎に生まれ変わります。この頃は寒川長洲（現・中央区長洲）の千葉県庁の向いにあったので、唐破風の市庁舎とルネッサンス風の県庁舎、和洋の豪華絢爛な建築物が並んでいたことになります。この珍しい光景も昭和38年（1963年）の市役所新庁舎完成と共に去ります。

②昭和34年頃の千葉市役所庁舎↑

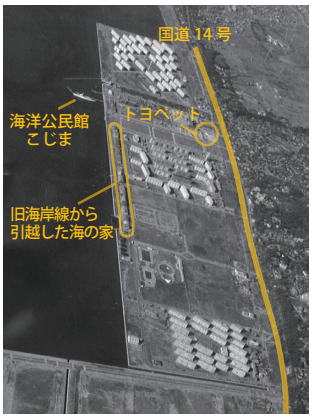


③昭和35年頃の県庁と市役所が並ぶ市街地→

旅の終点は稲毛、レストランも

昭和39年（1964年）、千葉トヨペット株式会社が市内に再建することを条件に千葉市から譲り受け、現在の国道14号線沿いに移築されました。建物の老朽化が進んでいたため修復に力が入り、移築完了は約1年後の昭和40年。躯体は木造からコンクリート造に変わりましたが、屋根は当時の木造銅葺を維持し、当時の風格が損なわないよう再建されています。

当時はすでに稲毛海岸の1回目の埋立が完了し、海浜ニュータウンの団地も並び始めた頃です。当時の国道14号線は埋立後も車通りが多かったことから、トヨペットはドライブインの役割も果たすためにガソリンスタンドやさらには「紫光」という名前のレストランも運営していました。紫光は正面階段を上がった2階にあり、デパートのようにガラスのショーケースにメニューサンプルがディスプレイされていたそうです。建物は純和風ですがメニューは洋食。近くの団地に住んでいた美浜区在住の松田さんは子ども時代、ヤクルトの配達員だったお母さまにくっ付いてよく紫光へヤクルトを届けたそうです。家族で紫光へ食事に行くと、お子様ランチには親子で配達したヤクルトが添えられていたのが松田さんの印象に残っているそうです。現在、紫光は閉店してしまいましたが、トヨペットには毎年春になると満開の桜が咲き誇り、沢山の人が集います。



④昭和42年12月、入居開始時の稲毛海岸埋め立て地

第一次埋立後の沿岸には「海洋公民館こじま」らしき船が見えます。

本紙見出しの「旅する建物」は千葉市在住の美術家・武藤亜希子さんが千葉トヨペット本社を題材に制作された作品のタイトルから引用させてもらいました。銀行、遊園地、市役所、レストラン、車の会社など様々な役割を果たしながら旅してきた建物は、多くの人の記憶に鮮明に残っていることでしょう。また、千葉トヨペット本社が美浜区稲毛海岸にやってきた頃は、海防艦～気象観測船～巡視船と様々な役目で世界を周り最終的に「海洋公民館」となった船「こじま」もすぐ近所（現・高洲スポーツセンター）にあり、二軒は埋立後の稲毛海岸のシンボルでした。埋立後の新しい稲毛の街にも興味深い記憶がたくさん詰まっているようです。旅する建物の情報と共に美浜区の記憶も募集中です。

⑤美術家・武藤亜希子さんの作品「旅する建物―千葉トヨペット本社」の一部
（2019年、紙、透明水彩、鉛筆）

●本号の特集は『'91千葉市制施行70周年』（千葉市総務局市長公室広報課・発行）、美浜区在住の松田美津江さんのお話、千葉トヨペット本社・勝又社長のブログを元に編集しました。●画像は①船橋市西図書館、②③④千葉市立郷土博物館よりご提供いただきました。ご協力いただきました皆様、どうもありがとうございました。